

人

五 九八 受信三〇〇七 譯了〇一〇〇 五〇四三三〇

察 急 共 符

高 警

機密第〇六一六一二番電 二分ノ一

發 高雄警備隊司令

高雄要港地區戰圖概報(六日一五〇〇)

〇九〇〇ヨリ一二〇〇迄B1二四 四五機、B1二五 二六機、P1三

八 七機西海面上B1二四 一部(約三五機)、高雄要港地區ニ侵入

一〇〇〇ヨリ約一時間海軍地上施設及左營街ニ中小型爆彈多數ヲ投下南

方ニ脱去セリ

一 被害

(4)警備隊兵戦死一重傷六地上施設被害ナシ。(通信課註 本電二分ノ二未着)

這四八八一 呂一八八() G P P 大 石(吉) 田()

昭和廿年五月九日

9.

五

七六

受信〇二二一〇五

譯了〇一五〇

電〇三四四〇

作

概

昭和廿年五月七日

至

急

●

共

符



● 西部海面防備部隊

●

東京、横濱、名古屋各在勤武官
伊勢灣、三陸各部隊各

機密 第〇六一六一六番電

發 横濱參謀長

宛 東部海面防備部隊指揮官 濱港營

通報 東京灣部隊指揮官

數日來敵機ノ行動ハ異狀ニシテ五日夜東京灣内ニ機雷敷設伊勢灣方面
熊野灘方面芝浦邊九里濱方面ニモ其ノ疑アリ敵機來襲ニ際シテハ一層
機雷投下ニ對スル見張ヲ嚴重ニシ敷設位置ノ確認ニ努メラレ度

通三八六一

天二日

日

機須賀

田中(吉)

田

五六

受信一七四五
譯始一八〇四

譯了一八三九 電〇三四三六 作 概

作戰緊急

ペナン航空基地



西方部隊
西方部隊

機密第〇六一六三〇番電

機密第〇六一三〇〇番電作成替

一一〇〇敵機西北方ニ退避先、飛行機八機ハ敵小型機一三ニ改ム高度
約一〇〇〇我ガ方大機一沈没消耗機ナシ其ノ他被害ナシ。

通三七八四 於十六(一八四一)(七)十通 山本(畝田)

昭和五年五月七日

1894

昭和四年五月廿四日

五六 受信二一四〇 譯了二三一四 電〇三四〇六 作 綴〇

至 急 九五一空 P

佐 鎮・大島防備隊 P・古仁屋空基地

天一號作戰部隊各 PVA

機密 第〇六一六三一番電

佐世保領守府信電令作第一〇〇六號

佐世保古仁屋間作戰輸送月齡ノ關係上五月十八日迄中止

通三八一三 天二Bケ一一(四九一五KO) 佐二放

岩崎(鈴三)

五 受信二〇一三〇〇 譯了〇三一〇 電〇三四七九 作 概



聯合艦隊 口

共 符

機密第〇六一六五二番電

照參電第三九四號

六日ハラオ特報

一、本朝來スコイルノ爲コスソル泊地ノ狀況不明ナリシモ輸送船一
 九（八千噸級一四隻内一隻ハ甲板上飛行機六一七機搭載千五百
 噸級五隻内三隻ハ甲板上舟艇各一搭載何レモ滿載）油槽船二
 （内一隻ハ一萬噸級甲板上飛行機四機搭載他ハ八千噸級滿載）
 一一三〇迄出港セルコト確實ナリ

二、前項ノ外一四〇〇迄ノコスソル入泊船舶左ノ如シ

入泊輸送船五（何レモ八千噸級滿載）

通三七九七 呂一Bラ一四（七八五五B）三通 發生（小澤綾）

昭和五年五月七日

三一四〇〇ニ於ケルコスソル在泊船舶左ノ如シ

輸送船七油槽船三(潜艇一)

四昨五日夜輸送船一三(何レモ吃水淺シ)ノ一團バラオ本島東方海面ヲ速力約一〇節ヲ以テ東北進セルヲ認メタルモ爾後日没ノ爲動行不明トナレリ。

809

人

五 八 受信〇二一〇
開始〇五四五
了〇六三〇
自〇四〇五一
至〇四〇五七
昭和廿年五月九日

八 通 信 隊

東 通・聯合艦隊

四 艦 隊

機密第〇六一七五八番電 九分ノ六三三四五六八

發 南東方面艦隊參謀長

宛 大海參謀部第一部長

通 戰力補給部長

N 機密第〇四一二〇九番電關聯

R R 向次期月明期中挺身輸送方取計ヲ爲多キ物存左ノ通

一マラリア劑一〇〇〇瓶(包裝共)若マ甲及同乙ヲ經力多量充當ノ

通四二六〇 四三六六

四三三三 四三九五

四三六五 四四四二

口一Bラ二一七六三〇(八通)

五二二五(一)

吉川(久保田)

コト（海陸軍共用）

三 海軍専用物件（約三二〇疋）

(イ) 藥品カルバミチン三〇疋ヨードホルム末五疋アクリノール五疋
 ビタミン・結晶三一疋エメチン末五〇〇瓦ギムザ末一〇〇瓦カ
 ム血清一〇疋ガスタク 血清一〇疋各種診断用血清一〇〇疋宛
 イソブタミユル一疋パラチウム五瓦計五五疋（容器ヲ含ミ約一
 〇〇疋）

(ロ) 砲術關係安式一五煙筒用藥一號擊發火管一六〇〇個（容器共

計六〇疋）

(ハ) 水雷兵器魚雷用釘附帶番弁（九三式九五式更換）各五〇本分

魚雷深度機 飯用二年式帶九四式三〇枚八年式四〇枚八九式四〇

枚九〇式四〇枚九三式五〇枚九五式五〇枚九六式五〇枚九一式

（改一改二改三）四三六四〇枚（正味計四疋）

(ニ) 貨物自動車部品（日産豊一關スル五十輪ノ於五イギニシヨコ

イル（一〇）（一二）（一四）（一六）（一八）（二〇）（二二）（二四）（二六）（二八）（三〇）（三二）（三四）（三六）（三八）（四〇）（四二）（四四）（四六）（四八）（五〇）（五二）（五四）（五六）（五八）（六〇）（六二）（六四）（六六）（六八）（七〇）（七二）（七四）（七六）（七八）（八〇）（八二）（八四）（八六）（八八）（九〇）（九二）（九四）（九六）（九八）（一〇〇）

(一)

昭和廿年五月九日

○、五〇）四〇五アレキシブルオース（一七・八・〇）デス
 トリビュニターキヤツプ（一〇・一〇・五）燃料五〇六ヤフ
 ラム（二五・〇・〇）キヤフヤターダイヤフラム（二五・〇
 ・〇）（正味計二三噸）

（内製材關係グラインター（八吋）一〇個丸鋸齒（四二吋）一枚
 外刃鋸（五吋）十枚平鋸（七吋）二〇本青酸加里三瓦銀鐵五
 瓦（包装ヲ含、計約八三瓦）

（其ノ他

（一）由式空氣壓縮ポンプ部品四段ピストンリングニ〇〇枚前後
 方齒車軸用コロニ〇〇個燃料ポンプ逆止弁用ハネ五五箇後
 方齒車軸五個既定正味計一・七瓦

（二）眞空管（U₂ニA三）四同（U₂四ニ）二六デフライエキ
 サイター電球（五・五V五A）七八デフライ映寫電球（一
 〇〇V五〇〇W）六六半固定型映寫電球（一〇〇V一〇〇W）

〇〇W) 二四三ノライ

(本電九分ノ七未着)

閉書類昭和二十一年統海層二部米英通信課報資料(最近版)一部無

線方位測 定要圖(D二) 名簿吳・佐・舞・各一士官像備 一五〇枚特准士官進級辭令公報二〇年五

月ノ分准士官進級辭令公報十九年八月十一月無領ノ分和二十年

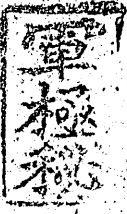
五月各領ノ分下士官任用進級公報昭和十九年十一月吳領ノ分同二

十年。

東通註 本編中「ナロマ」ハ「セメマ」「ニマ」トモ解得

電信課註 本編中分ノ共九未着

入



五 八
受信 一一四一
始 一二二五

了 一三五〇
電 〇四一七一

補
波
◎

昭和四年五月拾日

東通。聯合艦隊口

四艦隊口

八 通

機密第〇六一七五八番電 九分ノ九

五月改正追加ノ分、官房人第七六號所載海軍公報（計約二〇紙）（勿消

耗命鉛筆（黒）八〇打、靖略一二色八色鉛筆六打（特情用）（計六打）

三陸軍専用物件二〇〇紙（詳細、司令部ヨリ後報）

因餘積マシ場合ハ感心ベクマラリヤ刑刑ノ當ノコトニ取計ヲ待成。

電信課長、本電一、二、三、四、五、六、八、既即布七末着。

通河五七二 西一〇〇一 一七六三〇七 八通 長谷川（山）

五
七六 受信二〇二七 譯了〇一二六 電〇三六四五 作 概



三〇根戰團機報着信監所。五航空艦隊F。先遣部隊F
ヤツブ航空基地。四六警備隊

機密第〇六一八三七番電 二分ノ一

三十根戰團機報（五月六日）

PP 附近行動敵艦艇當隊機密第〇六一五二〇番電ノ外一五二四輪
送船三何レモ八千噸級滿載）コスソル水道入港ス

二艦界内敵艦艇泊状況

(1) コスソル水道大空輸送船七小型輸送船二大型油槽船一中型油槽
船二小艇八

三三八三四 白一Bラ十四（七八五五KG）三連 伊藤（紀川）

昭和廿年五月七日

1904

（口）P P P 周邊 逐 一 掃 海 艇 二 小 艇 九

（一）電信課註 本電二分ノ二末着

人

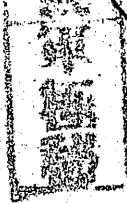
五六 受信二二二七
開始二二二五

了二二五〇 電〇三三八二

航空 本局

昭和五年五月七日

至 急



- 鹿屋 航空 基地
- 横濱 航空 基地
- 海軍總隊口・厚木航空基地・木更津航空基地

機密第〇六一八五七番電

一 U P D 電令作第三五號

第三空挺隊指揮官ハ第七基地航空部隊指揮官ノ協議ニ應ジ左ニ依ル

銀河整備員ノ前進輸送ヲ實施スベシ

一 五月八日鹿屋木更津間

二 銀河整備員約六〇名

三 任務終了後厚木經由歸投

道三七九四 呂一〇分一 () 横須賀 中野 () 津

五七 受信開始 〇七五三

譯了 〇九三〇 電 〇三六七七

航作本概 〇

昭和廿年五月七日

作戰緊急

鎮海警備府

大 長 聯合艦隊 口



海上護衛司令部部隊各戸

機密第 〇六二〇四〇番電 二分ノ二

三 P B M 二機 一五五至一四四〇 南鮮海面 B 一 二九 四機 青島以南

南鮮海面

四 P B M 三機 一二〇〇至一二二七 古群山群島以南 黃海海面 B 一 二九

二機 古群山群島南方

五 B 一 二九 二機 一四〇五至一四二五 南鮮海面

六 P B M 一機 一七〇三至一九〇八 青島以南 黃海海面

【電信誤註 本露二分ノ一 既配布】

通三九八三

呂一 B ケ 一一 九八三〇 K 一 佐二放

馬

小場

五 七 受信開始 〇〇五二一三七 譯了 〇六一五 電 〇三五五一 作 概

昭和廿五年五月廿四日

緊急

二六特根



二六戰團機報着信艦隊所各三南遺艦隊口

機密第〇六二〇四六番電

六五戰團機報 六日

一〇六四〇單發四下チンガ爆雷〇七一五單發二カウ灣制壓一四〇〇

二四 一カウ灣北進 戰果被害ナシ

ニタルバ出港〇八三〇大型型一(滿載)針路北入港一三三〇中一海虎

五大型上陸用舟艇三碇泊一八〇〇T大型一二 中型三 小型三大型

油槽船一病院船一〇一D四艘潛艇大船海虎一七魚雷艇一二上陸用舟艇
大型一七普通二〇其ノ他島影ニテ見エズ

三三〇口夕イ發進針路北乃至西大型三三中型一飛行艇一計三五
三三九一七 呂一Bラ十八(六一二二五心)二一通 カタ山(機澤)

昭和四年五月廿日

五七 受信開始 〇〇二二五八 譯了 〇八三〇 電 〇三五九六 作 概

至 急



● 東方空襲部隊戦闘概報着信艦所

● 二十二根ア

● パンゼルマシン航空基地

機密第〇六二一〇九番電

通報 襲

東印空襲 闘概報 (五月三日)

一〇九三七 九一四 四機セラタン角ヨリ侵入第二飛行場パンゼルマ

シン市街附近パンゼルマシン投弾二〇發

ニ 結果 被害ナシ。

通三八八四 天ニヨケ六(六一二二五)廿一通 安彦(獵 狩)

五七 受信開始 〇〇一四〇五 譯了 〇二二五 電 〇三四四五 航作 概本 〇

緊急



淡水航空基地

聯合艦隊口・古仁屋空基地・佐賀・一機動基地航空部隊
大島防備隊

機密第 〇六二三二九番電



六三四空司令ハ一時古仁屋基地ニ進出同地ニ於テ作戰指揮ニ任ズル
ト共ニ同基地機能ノ維持活用對策ヲ研究報告スルト共ニ所要ノ措置
ヲ講ズベシ復歸ノ時機ハ司令ノ所信ニ一任。

通三八八三 呂一七ケ十一(三七八二五) 五時三十分放半澤(秋葉)

昭和廿年五月七日

五七 受信開始〇〇六五五
九三三

譯了〇九二〇
電〇三六一一

昭和五年五月廿四日
作 概



第二三根戦闘概報着信處所

機密第〇七〇二三〇番電

二三特根戦闘概報第七八號

六六日 一五五 四發二機北東ヨリ侵入「リンフン」飛行場第二滑走路

投彈五發一二四七東方ニ去ル第三滑走路使用

三一四一〇 四發五機北東ヨリ侵入「マカツサル」郊外投彈發一四

五〇南方ニ去ル被害陸軍戰鬥機一機敵機五機ニ向ヒ交戦自爆(搭乗員

海上ニ降下セリ)一七〇三 四發一機南方ヨリ侵入「マロス」附近村

落ニ投彈後一七四〇北東ニ去ル 被害ナシ。

通三九六七 呂一Bラ十八(六一二二五KC)二一通 原(様) 澤)

人

五七 受信 〇〇七三五
譯了 〇八〇〇 電 〇三六〇五
航作 本〇

至急



- 南島島航空基地
- トラツク航空基地
- 聯合艦隊口
- 木更津航空基地

機密第〇七〇五三二番電

發 第七五三航空隊司令

當基地機密第〇五一四五九番電ニ依ル彩雲五機ノPT進出ヲ八日ニ
改ム。

通三九八二 呂一B分十一 (B) 木更津空 渡部(阿波)

昭和廿年五月七日

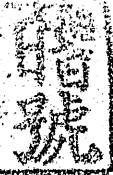
五
七

受信
始一〇九一〇四

譯了
一〇一六 電〇三六二五

航作
本〇

昭和廿年五月七日



佐鎮區敵情着信監所

山川防備衛所

機密第〇七〇八二六番電

〇八〇七B-1二九 一〇機方位一〇〇度距離八杆ニ於テ味方戦術後ノ
遊撃ニ依リ灣内ニ爆彈八(時限爆彈ヲ含ム)投下内三個爆發セリ。

通四〇三九 オ一六(九八三〇KC)佐二放 山本(不 下)

1913

人

五・七 文信 一六四五

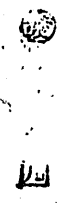
譯了 一七一〇 電 〇三八二三

作 概

昭和五年五月八日



東 通 三 一 通



通

機密 〇七〇八三七番電

苑 G K F P

通報 〇〇〇 大海一部

戰國御報 (四月)

二十七根機密 〇二一八〇九番 編作 成 換 調 柳

一 來 製 敵 機 延 二 〇 〇

二 四 月 中 旬 以 降 小 型 艦 艇 ノ 砲 銃 擊 チ 又 ク

通 四 一 七 七 呂 一 〇 〇 〇 一 七 六 三 〇 〇 〇 四 通 加 藤 一 木 下 〇 〇

三、海洋方面ノ敵ハ四月下旬「ウエワツ」四方ニ「ムシユ」
 「ヨウリウ」ハ北北東ヨリ砲撃ヲ受ケ前方山地方面ハ「マブツ」
 「東方」ニ侵入セリ
 四、高島ノ海軍部隊戦果計二〇〇ト敵ニ損害五四ヲ與フ
 五、本月以降自活ヲ急ギ又巡警部器ヲ用糧食ヲ以テ本年中支ヘ待加見
 込。

人

五八七 受信二二三〇〇 譯了〇二二五五 電自〇〇三九六一 作機〇
 譯始〇二二〇〇 聯合艦隊 高 航本



東通 聯合艦隊 海上設橋總部隊・南西方面艦隊 航空艦隊 二遣支艦隊 支那方面艦隊 臺灣空 海南 佐 高進第二分遣隊 沖繩 機密第〇七〇九二五番電 三分ノ一、二、三

五月五日來發狀況

一〇八三〇ヨリ一六三〇ノ間B一三六機B一三五 一機PB
 一七機P一五一 二五機計八一機ハ單機取ハ
 數機ニテ東西海面北上高雄臺南臺中新竹臺北ヲ除ク 後兩方ニ退去セリ

三二一三〇頃ヨリ西海面北上セル不明機二機ハ二二〇〇ヨリ二二
 三三三三 呂二Bラ十八(七七〇五)高進
 三三三三 小本(川崎)
 三三三三 右佐

昭和廿年五月八日

一五ノ間高雄地區ニ投弾南北ニ退去セリ

三二二〇三ヨリ未明夜二機東西海面北上〇三三ニ返ニ去北地區ニ

侵入投弾南方ニ退去セリ

四戰果ナシ

五機善海軍側兵舎一棟炎上(新竹)陸軍側兵舎一棟中破敵死傷十名

(南方諸島)民間側家屋大破而二炎上一五死傷二三名(各島台訖)

六五月三日宮古島來襲状況

(1)〇七三〇ヨリ一八一五ノ間四次ニ亘リ海上偵計二二機來襲飛行

場港灣ヲ銃撃セリ

七五月四日宮古島來襲状況

(1)〇六五〇敵機上機二五機來襲防空砲臺ヲ燃焼

(2)〇一四五ヨリ直衛隊機(グラマン)ト指定(1)ヲ有スル大中機

艦隊一三兩機ヨリ侵入砲撃ヲ行ヘリ

(3)戰果堅一機

(4)石島ノ戦況大龍ナク不明。艦隊二機損

五 七

受信一七四三
譯始二〇三〇

譯了二一一〇

電〇三八四一〇

航作本概〇

昭和廿五年五月八日



九〇三航空隊

父島航空隊・九〇三空總派遣隊・電波處理表示符

海上護衛總司令部・東部海面防備部隊△・横領
大湊警備隊・大阪警備隊・横領對潛航空部隊△

機密第〇七〇九四三番電

二分、二二

電令第五〇號

一、飛行機隊第三次基地展開要領左ノ通り定ム

(A) 大湊派遣隊 零式水偵二機五月八日厚岸ニ進出

(B) 山形派遣隊 零式觀測機四機成ルニ速ニ濱島ニ進出

厚岸派遣隊兵力ヲ常分ノ間零式偵察機四機トス

各派遣隊指揮官人兵力配備終了次第人員機材ノ現状報告ヲ提出セヨ。

四二二六
四二四六

呂一Bケ一一(四)七五KC) 大湊

牛島
森 (新井)

人

緊急

五七 受信一八七〇三九 譯始一八二〇 電〇〇三七七八〇九 作 機

三、五、一〇各航空艦隊

小松航空隊・松島、串良各航空基地



機密第〇七一〇五五番電 二分ノ二

一 宇佐空 B-12 九遊撃戦闘機報 (五月七日)

〇八一五 B-12 九 一機北東方ヨリ來襲高度六〇〇飛行場中央

部ニ約二〇個(時限彈ヲ含ム)投彈避退セリ

二 戦果 陸軍戦闘機三之小應撃墜一 他ニ築城空ニテ視認セルモ

ノ撃墜一機

三 被害 陸軍戦闘機屠龍一機炎上セル外被害輕微ナリ人員被害ナシ

四 滑走路使用可能飛行場ハ概略修理數日ヲ要ス。

通 四一九三 呂一 B ケー一 (七八七五 KC) 一 K F G B 放 田中 (佐藤)

昭和二十五年五月八日

昭和五年五月九日

五七 受信一九二五 譯了二〇〇一 電〇三八三四 概部〇

緊急

一〇方面艦隊



東 通 三三航空隊 下・シヤカルタ代機・十五特根

機密第〇七一四九番電

發 參謀長

宛 大海參一部長 軍務局長

大海機密第〇二二〇四三番電ニ依ル對獨處理中在南方占領地獨海軍駐在士官事務所ハ當リ外部ヨリノ通信連絡ノ遮斷ストアルモ無線通信ハ一切禁止スベキ又ハ本國トノ暗號通信ノ外許可スベキ疑義アリ當リ對潛水艦ハ東京通信ノ外禁止潛水艦(〇一八三)神戶艦後ハ一切無線通信ヲ禁止スル豫定ナリ何分ノ御意向承ル度通四二四三 另一日ラ十八(一七五九)十通 大内(猪狩)

人

五七 受信一七五〇七 譯了一九〇〇 電〇三七九五 航作 概〇 本

緊 急 大 村 航 空 基 地



第一機動基地航空部隊機務報告信送所

機密第〇七一―五七番電

三四三空戦團機報(五月七日)

警報ニ依リ〇七三〇察電隊二三機發進〇八一五ヨリ〇八三〇ノ間ニ
延岡東方ヨリ大分附近ニ亘リ敵E1二九 十機ヲ捕捉攻撃一〇〇
迄ニ一七機歸着今迄ニ判明セル戦果左ノ如シ
E1二機E1一機被害胴體強度不足ニ依リ空中分解一落下傘降下一
自爆一未歸還三ノ隊長菅野大尉ヲ含む大分上空ニテFP1四〇E
E一機ヲ認めタルモノアルモ詳細調査中。

通四二二一 留一Eケ一(一七八七五KG)一KFE 奥山(福田)

昭和五年五月八日

昭和廿年五月九日

五八 受信〇〇七四〇五 譯了〇八五二 電自〇〇四〇〇四〇八
譯始〇七四〇五 戰艦作機 力政〇

閉 父島通信隊

作

東京通信隊

機密第〇七一二二番電 三分ノ二二三

父根司令官

備鎮參謀長

通報 大海戦力補給部長・海上護備參謀長・第八振興丸艇長

當隊監視艇第八振興丸ノ現状不明ナルモ船體機關完備ノ狀況ナラバ左

ニ依リ挺身輸送ヲ實施セシメ度處都合ニ依リ差支ノ有無通知ヲ得度

(1) 武装射空力ヲ爲シ得ル限リ強化更ニ敵艦ニ遭遇ノ場合ヲ考慮爲シ得

レバ野砲 一門 彈藥約四〇〇發搭載若ハ二十輝噴進砲二門及同用彈

藥約六〇發對潛裝備ヲ行ヒ右ノ兵器ハ當地着陸戰兵器トシテ充當ス

通 四四二二一四 呂山 〇ラ十八 (B) 横 道 長保田 (倉田) (一)
四四二二一四 山崎 井 (倉田) (一)

(四) 希望敵貨短一二種迫撃砲八門並ニ同信管火管及發射藥 (受信股)

個一二種高角砲彈藥一〇〇 發一三種機銃彈五萬發セメント一五噸

右ノ外餘席アラハ二十五種機銃彈及八種迫撃砲彈成ルベク多量

(五) 行動要領

(一) 適時出撃早朝八丈島着待機

(二) 正午頃出〇九〇〇頃鳥島着待機錨地ハ見張所直掩機銃ノ射撃圈内

ニ在リタ陸岸ニ極度ニ接近セシ位置トス

(三) 成ルベク眼界不良ナル時機ヲ見定メ早朝鳥島發翌早朝肆島着

四日没後發父島入 港

(四) 各待機地ニ於テ攻撃ヲ受ケ行動不能ニ陥リタル場合ハ最寄ル海軍

機關ニ收容ス

二第一六號輸送艦ノ輸送成功セバ成ルベク速ニ敵情天候ヲ見定メ監視艇

みどり丸豊丸雜役船第三鷹壽丸明神丸松榮丸第三八幡丸ノ内地送還ヲ

計畫中ナリ

右ハ孰レモ船體及機關衰朽當道ニテハ使用ニ堪ヘザルモノナルハ内地回

航ニ堪フル程度ニ整備ノ上出シヒシムル豫定ナリ。

(二)

五 八 受信 〇〇六二〇六
 譯了 〇六四五
 〇〇三九九三
 〇三九九四
 作 標

昭和廿年五月九日



吳 鎮 吳 防 戰

海上護衛總司令部 機動基地航空部隊各

機密第 〇七一四五六番電 二分ノ一二

佐伯航空隊 戰國 報 (五月七日)

一、〇一三九 不時着搭乗員救助ノ爲出現スベト敵潛捕捉ヲ企圖零式水

偵五機ヲ以テ一〇四五ヨリ一三三〇迄鶴見崎ノ一三〇度一八〇度

間五〇哩圏内ノ索敵ヲ實施敵潜水艦ヲ見ズ

二、本搜索中一〇五深島ノ八〇度七哩ニ於テ一〇一二九 (高度三〇〇

針路南一ト遭遇敵ハ深島ノ一三五度一〇哩ニ於テ高度五〇〇ト

シ爾後徐々ニ高度ヲ上ゲ南方ニ脱去セリ 附近ヲ三〇分ニ亘リ

索ルモ異狀ヲ認メズ

四四九四 呂一〇ケ一 (七四四二四) 吳通 小林 (田)

五
至急

電〇四五九四

作概本
航本

昭和四年五月拾日

作

航空總軍參謀長
大海參一部・大陸參一部・大灣警備府・九〇三空
海軍總司令部

機密第〇七一五三六番電

發 海上護衛參謀長

日本海方面對潛作戰強化ノ爲左ニ依リ貴軍能代飛行場使用ニ關シ便宜
供與ヲ得度

一 派遣兵力第九〇三海軍航空隊艦上攻撃機約六機及人員約六〇名
二 借用期間五月中旬以降當分ノ間
三 基地物件並燃料其ノ他所要兵器 第九〇三航空隊ニテ輸送ス

通一〇一九

呂縣一

齋ト